

平成14年度

消費購買動向調査結果（速報） - 富山市 -

富山商工会議所 / 情報課

調査概要

調査実施要領

富山商工会議所管内（旧の水橋町、和合町、呉羽町の地域を除く富山市の区域。以下、富山地区という）の14の市立中学校の協力を得て、中学校1年生の家庭2,271世帯を対象に調査票を配付し、1,642世帯から有効回答（有効回答率72.3%）を得た。

調査票の記入にあたっては、富山地区を13地区、富山地区外を11地区に分け合計24地区として、婦人服など18品目のそれぞれについて、設定した買物地区毎に過去1年間に買物した割合を記入してもらい、1つの品目の合計が10割になるよう回答を求めた。

当所管内の世帯数 98,353世帯（抽出率1.7%）

調査実施時期

平成14年7月

回答者の年齢構成

30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
1.0%	36.5%	58.7%	2.9%	0.8%

比率は小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計が100.0にならない場合があります。

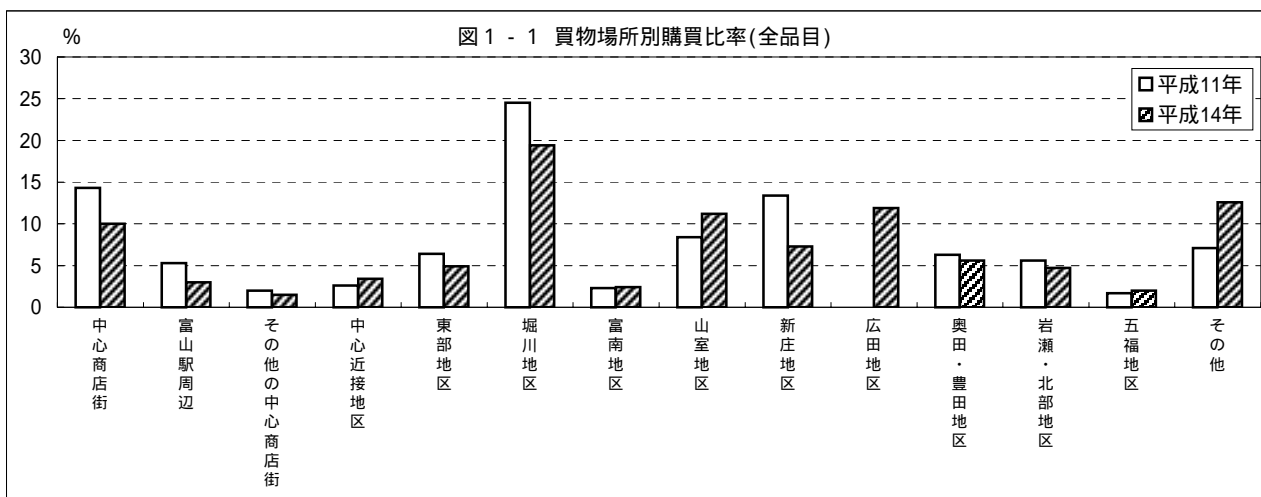
調査結果（速報）

1. 買物場所別購買比率

富山地区の調査回答者（消費者）が富山地区内（13の買物地区）のどこで買物をしているかを、小学校区（34区）別に調べた（調査地区の設定が異なるため、前回調査（平成11年7月）結果との単純比較はできない。また、校区別の回答数の大小によって買物地区の購買比率が左右される）。

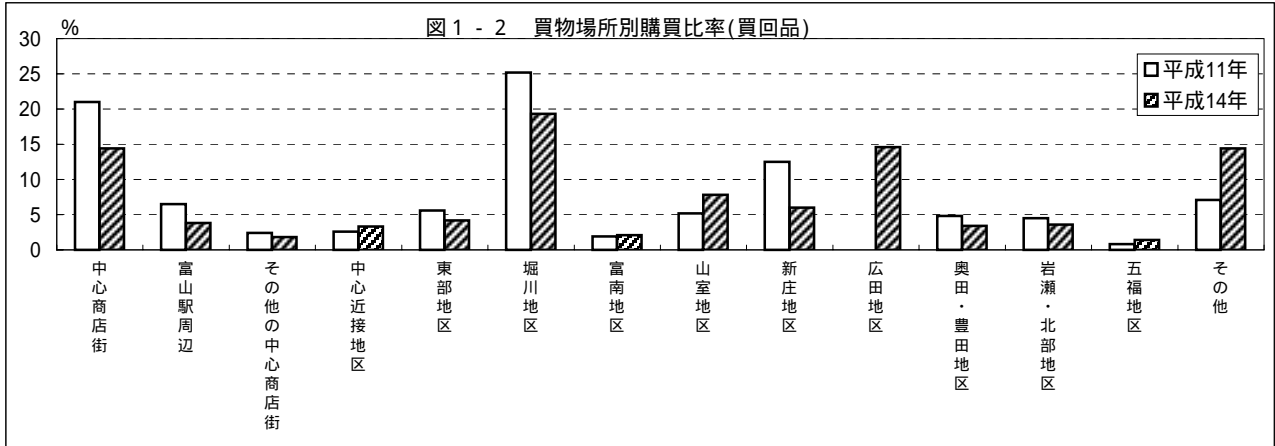
(1) 全品目

「全品目」についてみると、購買比率が最も高かったのは「堀川地区」の19.4%であり、次いで「広田地区」が11.9%、「山室地区」が11.2%となった。前回調査と比べると、前回トップの「堀川地区」は24.5%から5.1^ポイント減少したほか、同2位の「中心商店街」は14.3%から4.3^ポイント減少して今回は4位に後退した。同3位の「新庄地区」は13.4%から6.1^ポイント減少して5位であるが、これは、今回調査では「新庄地区」から広田校下分を「広田地区」として別に設定したことによる（「新庄地区」と「広田地区」を合わせると19.2%となり、5.8^ポイントの上昇）。



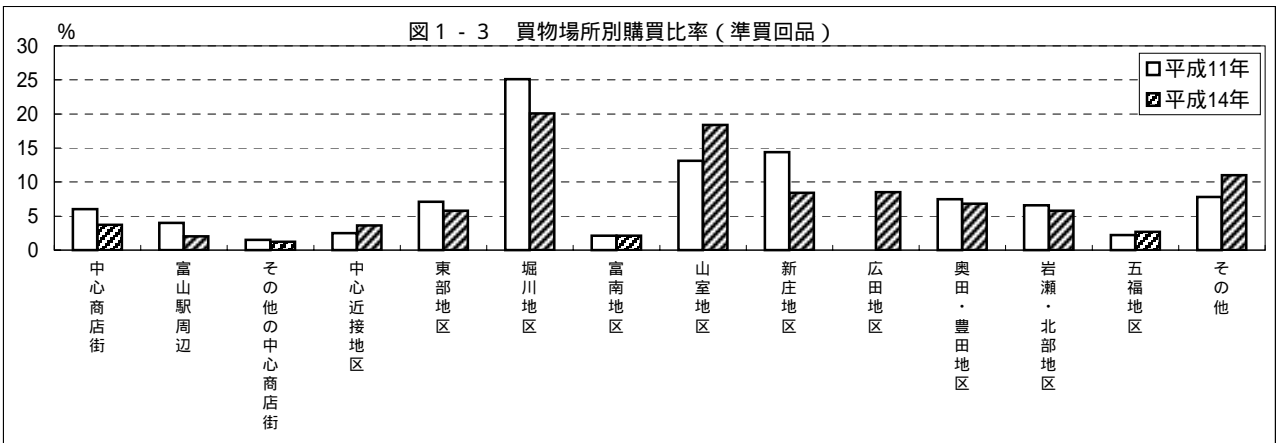
(2)大分類品目別 / 「買回品」

品目（大分類）別にみると、衣料品・スポーツ用品などの「買回品」では、「堀川地区」が5.9ポイント減少したものの19.3%で今回も最も購買比率が高く、次いで「広田地区」が14.6%、「中心商店街」が14.4%（6.6ポイント減、前回2位）と続いた（前回3位の「新庄地区」は6.0%で「広田地区」を合わせると20.6%になり、8.1ポイントの上昇）。



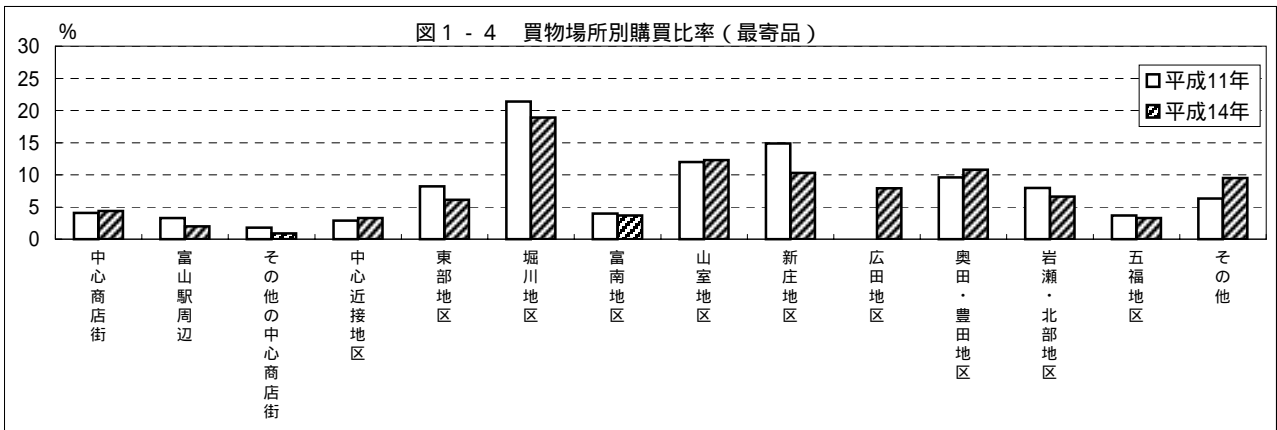
(3)大分類品目別 / 「準買回品」

電化製品、書籍・文具などの「準買回品」では、「堀川地区」が5.0ポイント減少したものの20.1%で今回も最も購買比率が高く、次いで「山室地区」が5.3ポイント上昇して18.4%、「その他（富山地区以外）」が3.2ポイント上昇して11.0%と続いた（前回2位の「新庄地区」は8.4%で「広田地区」（8.5%）を合わせると16.9%になり、2.5ポイントの上昇）。



(4)大分類品目別 / 「最寄品」

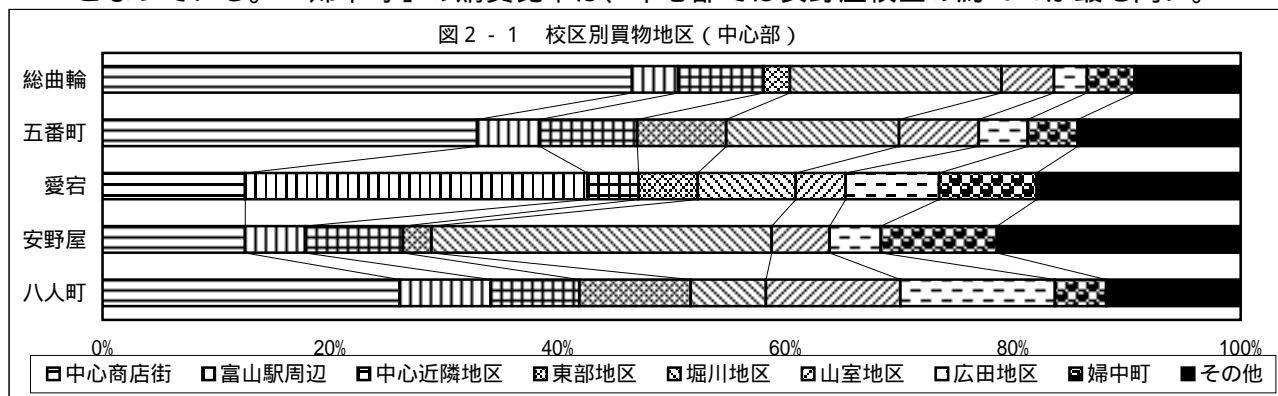
食料品などの「最寄品」では、「堀川地区」が2.5ポイント減少したものの18.9%で最も購買比率が高く、次いで「山室地区」が0.3ポイント上昇して12.3%となり、前回と順位は変わらなかった。3位には「奥田・豊田地区」が1.2ポイント上昇して10.8%と続いた（前回2位の「新庄地区」は10.3%で「広田地区」（7.9%）を合わせると18.2%になり、3.3ポイント上昇）。



2. 小学校別の買物場所（全品目）

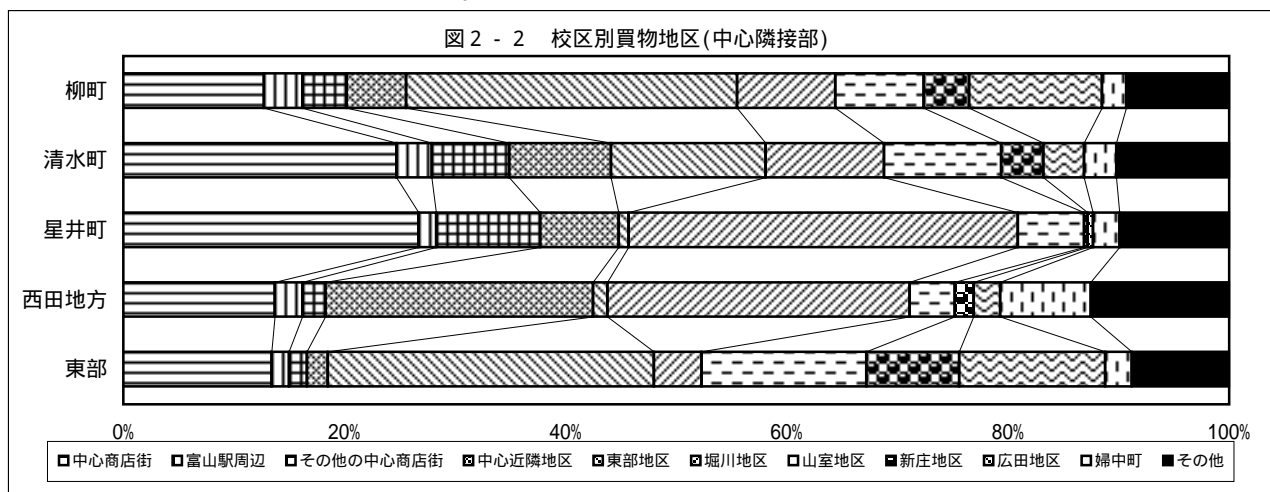
(1) 中心部

買物割合が最も高い買物場所は、総曲輪、五番町、八人町校区では「中心商店街」が26～46%、愛宕校区では「富山駅周辺」が、安野屋校区では「堀川地区」がそれぞれ約30%となっている。「婦中町」の購買比率は、中心部では安野屋校区の約10%が最も高い。



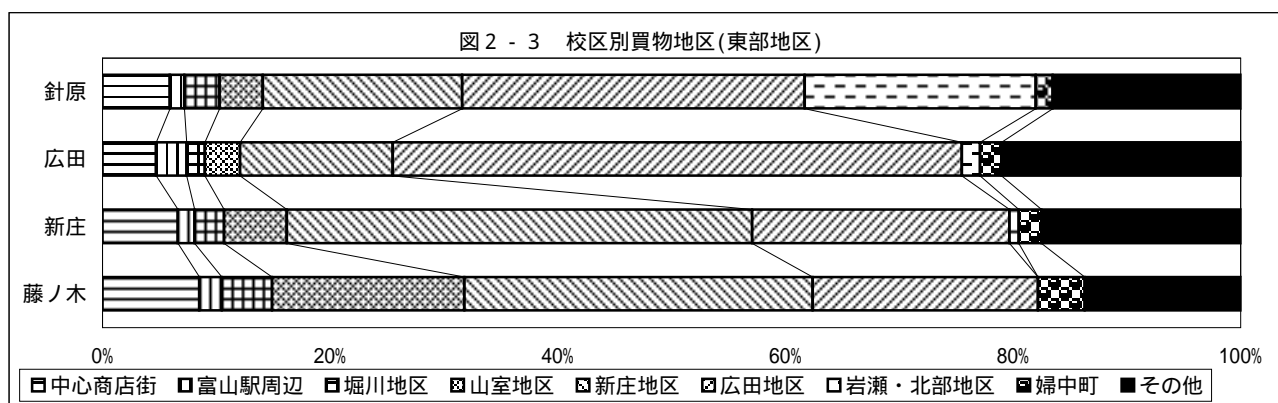
(2) 中心隣接部

買物割合が最も高い買物場所は、柳町、東部校区では「東部地区」が約29%、星井町、西田地方校区では「堀川地区」が27～35%、清水町校区では「中心商店街」が約24%となっている。また、星井町校区では「中心商店街」が、西田地方校区では「中心近隣地区」がそれぞれ20%を超えている。「婦中町」の購買比率は、西田地方校区が約8%であるほかは約2%で低くなっている。



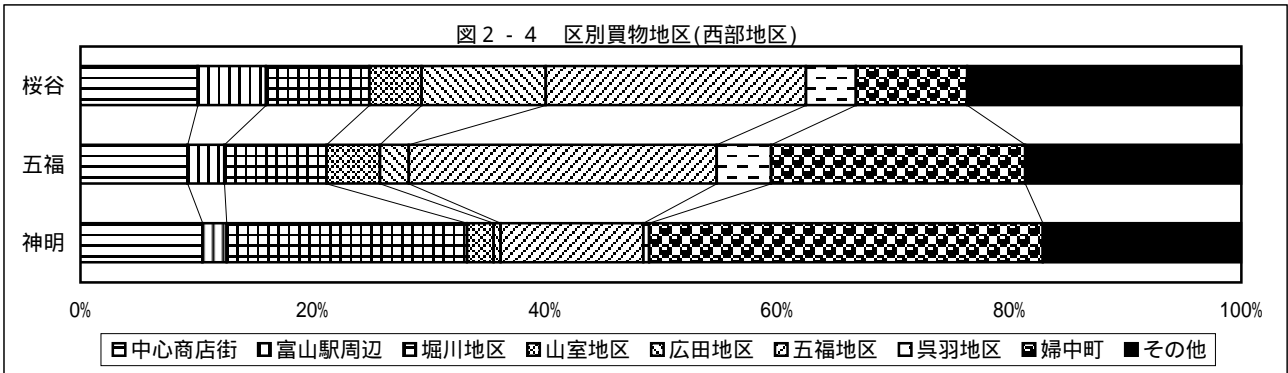
(3) 東部地区

買物割合が最も高い買物場所は、針原、広田校区では「広田地区」が30～50%、新庄、藤ノ木校区では「新庄地区」が30～40%となっている。また、針原校区では「岩瀬・北部地区」が、新庄校区では「広田地区」がそれぞれ20%を超えている。「婦中町」の購買比率は各校区とも1～4%で低いようである。



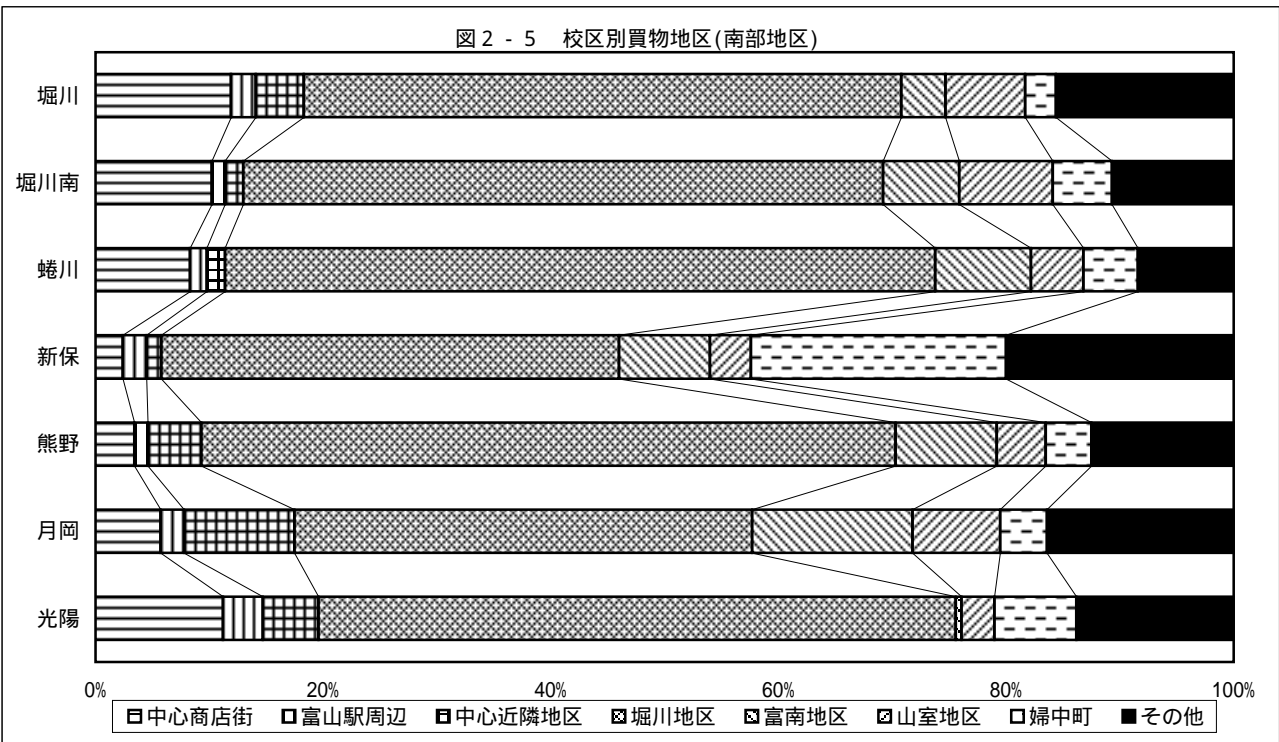
(4)西部地区

買物割合が最も高い買物場所は、桜谷、五福校区では「五福地区」が22～26%、神明校区では「婦中町」が約33%となっている。五福校区では「婦中町」が、神明校区では「堀川地区」がそれぞれ20%を超えている。西部地区は、他の地区と比べて「婦中町」の買物割合が比較的高いようである。



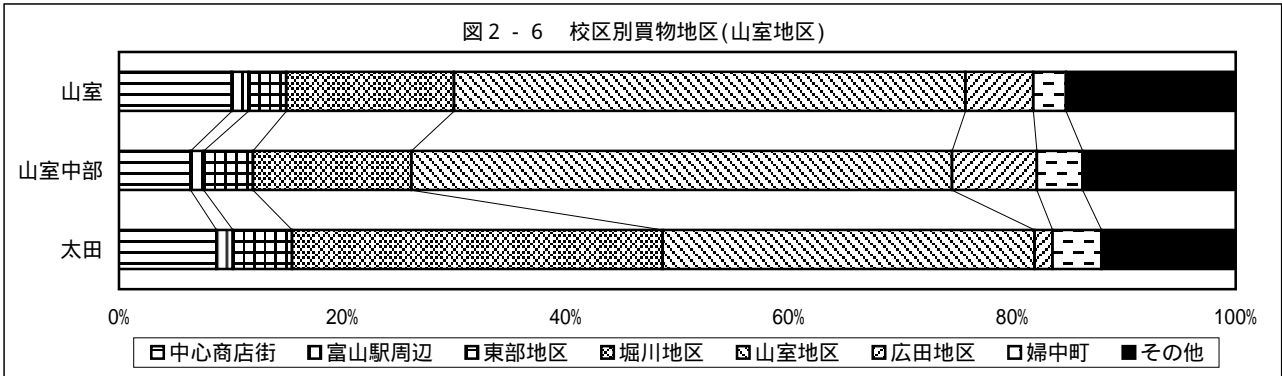
(5)南部地区

買物割合が最も高い買物場所は、南部地区全ての校区で「堀川地区」となっており、その割合も40～62%と高い。次いで、新保校区では「婦中町」が約22%となっているほか、堀川、堀川南、光陽校区では「中心商店街」が、月岡地区では「富南地区」が10～14%と続いている。「婦中町」の購買比率については、新保地区以外では2～7%となっている。



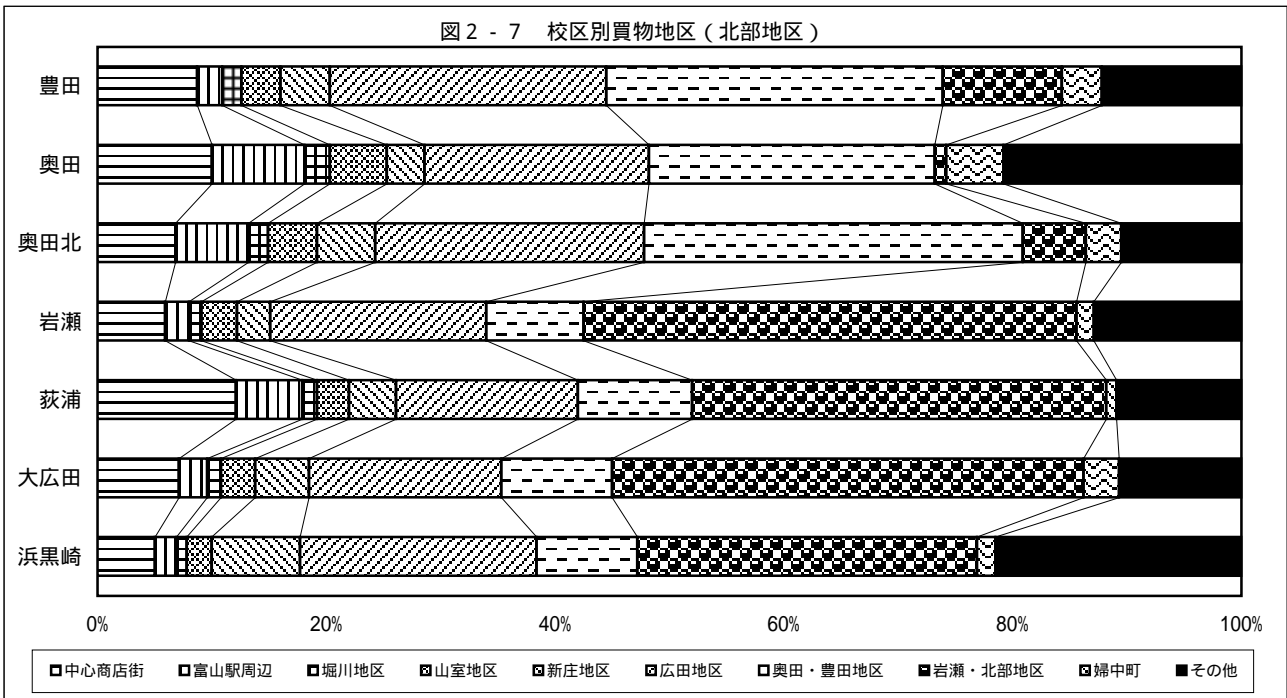
(6)山室地区

買物割合が最も高い買物場所は、山室地区全ての校区が「山室地区」でその割合も33～48%と高く、次いで「堀川地区」が14～33%となっている。「婦中町」の購買比率は各校区とも2～4%で低いようである。



(7)北部地区

買物割合が最も高い買物場所は、豊田、奥田、奥田北校区では「奥田・豊田地区」が25～33%、岩瀬、荻浦、大広田、浜黒崎校区では「岩瀬・北部地区」が29～43%である。次いで、北部地区全ての校区で「広田地区」が15～24%となっている。「婦中町」の購買比率は、奥田校区が約5%であるほかは1～3%と割合は低いようである。



詳しくは「平成14年度消費動向調査報告書」をご覧ください(平成15年3月末発行予定)。